

クリニカルパスウェイ
顔面神経麻痺の治療を受ける患者さんへ

平成28年4月作成
東京慈恵会医科大学附属第三病院

患者番号 @PATIENTID 患者氏名 @PATIENTNAME

	外来(入院前)	入院1日～2日目	入院3日～5日目	入院6日～10日目	退院
日時	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
目標	☐ 安静にして、症状の悪化を防ぎましょう	☐ 点滴治療を受け、ゆっくり休息をとみましょう	☐ 点滴治療を受け、ゆっくり休息をとみましょう	☐ 点滴治療を受け、ゆっくり休息をとみましょう	☐ 診察後、午前中に退院します
食事	☐ 制限はありません 	☐ 制限はありません ☐ 必要時制限食となります			
活動	☐ 制限はありません	☐ めまいやふらつきなどがある場合は転倒の危険があるため、無理に1人で動いたりせず、看護師にお知らせください			☐ 退院後の外来予約票をお受け取りください
検査処置	☐ 採血・レントゲン等があります ☐ 場合により内科や眼科診察、聴力検査やMRI検査を行います 	☐ 4階の耳鼻処置室で診察します ☐ 血糖値を1日3回測定する場合があります ☐ 顔の血流改善と拘縮予防のために、医師の指示に基づきマッサージを行います マッサージを開始する時はパンフレットをお渡しします 1日10分 2-3回行いましょう 蒸しタオルで温めてから行うとより効果的です ☐ 場合により、リハビリがあります	☐ 4階の耳鼻処置室で診察します ☐ 血糖値を1日3回測定する場合があります	☐ 4階の耳鼻処置室で診察します ☐ 血糖値を1日3回測定する場合があります ☐ 治療経過によって、点滴治療を2クール行うことがあります	☐ 4階の耳鼻処置室で診察します 
薬	☐ 普段飲んでいる薬は医師の指示に従い内服してください 	☐ 常用薬は医師の指示に従い内服してください ☐ 入院後、薬の内容を確認しますので、ご持参ください ☐ 目がしっかりと閉じられず、乾燥する場合は目薬を使用します ☐ ステロイドを点滴します ☐ 症状改善を目的として、ビタミン剤、循環改善薬、副作用対策として胃薬を内服します	<点滴治療とは> ・ソル・コーテフというステロイドホルモンを点滴します ・500mg-400mg-300mg-200mg-100mgというように5日間かけて点滴します これを1クールといいます ・症状により 2クール行う場合があります		
清潔		☐ シャワー浴は可能です 			
指導説明	<入院持参物品> ☐ 常用薬(7日分) ☐ この説明書 ☐ 日常生活用品	☐ ゆっくり休むことも回復には必要です ☐ ステロイド治療の副作用で眠れない場合は入眠剤をお渡しします ☐ 入院中は、感染予防のため、手洗い・うがい・マスクの着用をお願いします	☐ 点滴の副作用として胃部不快感・むくみ・体重増加・吐き気・発疹・血圧上昇(動悸・頭痛)があります 症状がある時は看護師にお知らせください	<退院後の生活> ・ゆっくりと過ごせる環境を整えましょう ・退院処方がある場合は、指示通りに内服してください ・麻痺の回復には個人差がありますので、外来にて経過をみていきます ・入院中、顔のマッサージをしている方は、退院後も継続してください ・退院後もステロイドの影響で胃部不快感、むくみ、発疹などの症状が続く場合があります ・知覚低下や顔面の筋肉の動きづらさにより、口の中に食物が残りがやすくなります ・口内炎を起こすことがありますので、口の中を清潔にし、火傷などに注意してください ・退院後も手洗い・うがい・マスクの着用を継続し、感染対策予防に努めましょう 	